

## 次期総合計画の策定に係る各種審議会や委員会でいただいた御意見の概要

### 1 会の名称

平成 30 年度岩手県男女共同参画審議会

### 2 県側出席者

環境生活部

総務部、文化スポーツ部、保健福祉部、商工労働観光部、農林水産部、復興局、  
医療局、教育委員会事務局、警察本部、政策地域部政策推進室

### 3 開催日時

平成 30 年 10 月 22 日（月）10：00～12：00

### 4 主な御意見の概要

#### ○ 参画について

- ・ 「参画」とはどういうことを示す必要がある。「参画」分野の冒頭には、男女共同参画や若者女性の活躍、幅広い県民活動、市民活動があり、幸福を追求する仕組みが整っている岩手であり、それが全ての政策に通じるという文言を記載していただいているが、もう少し計画の冒頭の分かりやすいところに記載すれば、付け足しという誤解を受けないのではないか。
- ・ 男女平等について、仕組みとしてはできつつあるが、県民一人ひとりの実感としては、不平等感がまだ強いことを考えると、「(10)参画」分野だけでなく、(1)～(8)の分野にも、指標として、具体化施策を入れなければ、リアリティとして平等感が出てこないのではないか。男性の家事時間については「家族・子育て」分野に入れていただいているが、例えば、防災委員、管理職など女性活躍で出てきたようなものや、政治分野における女性議員の比率、教育分野であれば男女混合名簿の比率などの指標を使うべきではないか。
- ・ 社会的人口減は女性の方が圧倒的に比率として多いということは、県も大きな課題と認識していると思うが、Uターン率も女性の方が低いはずである。SDGsのグローバルな指標を使うのであれば、Iターン・Uターンも含めて指標を作っていたら、力強い施策の推進力となるのではないか。
- ・ 「参画」にLGBT等について記載しているが、LGBT等の方は体に障害があるわけではないのですぐにでも働けるのに、社会との間に壁があってなかなか外に出ていけないので、相談窓口だけでは足りないのではないか。例えば、LGBT等の方をどんどん雇用するという企業が沢山あっても良いのではないか。
- ・ 岩手県の課題は人口減少、社会減であり、特に女性の大卒世代が帰ってこないことを何とかしていただきたい。女性活躍と言わなくても普通に活躍できることを岩手の売りとするれば良いのではないか。

- ・ 「参画」分野だけでなく、様々な箇所に、女性、若者、障がい者、LGBTなど多様な方が参加できるということを入れていただきたい。障がいを持った子どもたちや不登校の子どもたち、社会に出られなくて困っている子どもたちが沢山いるので、それらを考慮した記載にしていきたい。
- ・ 男女共同参画について、「(10)参画」分野に集約されているが、他の分野でも、ブレイクダウンして細かい項目になった時に、男女共同参画がキーワードとして、出てきても良いのではないかな。

○ NPOへの支援について

- ・ NPOの運営基盤が不安定な団体というのは確かにあるが、県が直営でやらない事業を委託する際に、人件費を度外視したようなケースもある。NPOの方たちは、自己犠牲な人たちも多いと感じるので、運営基盤が不安定な元々の原因が何なのかというのを考えてほしい。

○ 新しい時代を切り拓くプロジェクトについて

- ・ 「水素利活用推進プロジェクト」について、水素が前面に出ているが、本来、再生可能エネルギーには色々な分野がある。水素が再生可能エネルギーを代表している言葉ではなく、再生可能エネルギーという大項目の下の段階で、具体的なものとして出てくる言葉ではないか。言葉の選び方は難しいが、気を付けて出していく必要がある。